

世田谷村日記

石山修武

三月五日

十時過地下へ。3打合わせ。十三時TVプロダクションルーカス来室。四月より本格的な取材に入る事になる。TVの取材が多くなっているのは良い事なのかな。十七時大学。経営システム機械B(生命工学)会合。二十時半修了。大方の合意に達した様に思われるが油断大敵。建築学科に未来があるとすれば、この組み合わせしかない。又、明日十時よりこの会合は繰り返し返される。土木、資源との連合だけは避けなければならない。明日の教室会議が一つの山場かな。

三月六日

七時起床。九時五〇分大学。経営システム、機械Bとの会合。十三時教室会議。主任より理工学部再編成への建築学科のこれまでの対応経過を報告。一応皆も納得してくれたと思う。土木、資源とは組めぬという考えも述べた。十五時半ペルーの学生来室。JAICAより来年から石山研で研修したいとの事。十六時半、王国社山岸氏来。「石山修武の設計ノート」が出来て、持参して下さった。明るい表紙で、良かった。読み直してみると我ながら馬鹿だが面白いではないか。昔は本が一冊出ると嬉しくて撫でたり、さすったりしていた。今は残念ながら無くなくなってしまった。自分で自分の本を客観的に、よそよそしく見るようになってきた。経験は人間をすりつぶす。この本は室内に五年連載していた

ものを王国社の山岸さんが拾ってまとめたものだ。どうしても室内連載だから、知らず知らずのうちに文章が山本夏彦風になってしまう。私の文章は山本夏彦の域には到底達しようがないものだが、それでも似てしまったのはこの本でわかる。それだけがとり得でもあり、又無念でもある本だ。御購読頂きたい。今は本が売れぬ時代らしいから自分で行商する様な事になるかな。

三月七日

雨だ。十時TV世田谷村取材スタッフ来るも生憎の雨で屋上菜園は難しいだろう。女性二人だが少し可哀想。何処の職場にも女性が進出しているな。

十二時半学部長室。再編会議。色々と面倒臭い事になるかも知れんな。建築機械B経営の柔らかい連合を早く形にして固いモノにしなくては。土木との野合だけは何が何でも避けなければならない。十七時半世田谷村ミーティング二十二時西調布中川さん。二十四時半帰る。

三月八日

九時前起床。昨夜は三時前まで国連安保理の会議をTVで観ていたので寝坊した。今日は晴れて少し暖かい。九時四十分地下へ。仕事の始まりを十時にしたのでまだ誰も居ない。静かで気持ち良い。地下の醍醐味だな。

キルティプール計画から安藤を外すのを決めた。昨年キルティプールに同行したのが無駄になったがマ仕方ない。別の人材を育てよう。地下の仕事の担当者方式も改めて見直してみた。

十七時キルティプール、ポンペンワークショップ説明会。二時間程スライド等を交えて話す。結局ネパール、カンボジア共に

松本が私のワークシヨップのアシストをする事になったが、私も大変だが彼も大変だろう。大丈夫かな。一人の無神経振りが他を不自由にする。

三月九日

五時過起床。荷造りをして羽田まで家内に送ってもらう。八時十五分発のANAで沖繩へ。那覇空港で渋井さんに会えるだろう。考えてみれば今日は日曜日ではないか。なんで飛行機に乗って遠くまで行かねばならんのか不思議だな。家内が怒るのも無理ないが、仕方ない。十一時頃、那覇着。プノンペンの渋井さんと再会。照屋君とも合流。名護へ。昼食後、今帰仁村湧川、仲松キヨさん八十才インタビュー。淡々とした素敵なオバーさんだった。うちのおフクロも考えてみれば八十四才なんだからこれ位の魅力は充分にあるんだと再認識した。年寄りは素晴らしい。賢者の知恵をこれから生かさねば駄目だ。十七時四十五分ホテル二十一世紀チエックイン。本当に絵に描いたようなビジネスホテルで一泊六千五〇〇円。朝食付き。十八時半中華料理屋で名護市長岸本氏他と会食。談論風発で楽しかった。市長の娘さんが建築関連の仕事らしく、その話を聞いて会ってみたいと思った。驚いた事に市長以下、ウチのホームページのプリントアウトを持っていて驚いた。昨日のNHK国宝探訪も観て下さっていて、まさに世は情報化時代である事に身につまされた。二十一時過会食を終え、ホテルに帰る。渋井さんと二十二時まで話して、自室に戻る。備瀬の福木並木道と、今帰仁中央公民館を体験できたのは良かった。

三月十日

朝六時半頃起床。ソニーのミニディスクレコーダーのマニユア

ルを読む。もう使われている言葉にギャップがあるので四苦八苦。簡単なことが難しく書いてある。今日は風も無く良い天気だ。八時渋井さんと朝食。百円シヨップで買った腕時計はまだ動いている。百円で時計が売られる時代なんだ。スタイル、アクション、スポーツ、ファッションとバンドに書いてある。クアラという名前らしきもプリントしてある。驚いた。八時渋井さんと朝食。渋井さん山盛りの野菜喰べる。九時半ホテル発。十時今帰仁村仲尾次。渡名喜長栄さん(九〇才) 上間敏雄さん(七〇才)。少し広めの伝統的な沖繩の家屋。長栄さんが歓迎の思いを込めて三曲三線で唄ってくれた。この九〇才も畑仕事に明け暮れている。

昼食後今帰仁村湧川、山城要八さん(八七才)。十六時ホテルうらわチエックイン。朝食付き三八五〇円。海洋博当時のもののようにだ。十八時車で四十分程にある恩納村ムービーチへ。国建の国協会長他と会食。国場さんは早稲田建築出身で、故木島安史、象の樋口さん等と同級生との事。ホテルは国場さん設計のもので清々しいモダニズム建築だった。御挨拶とこれからの御支援をお願いする。二〇時ホテルに戻る。二三時結城さんはるる盛岡より到着。変だなア。カンボジア、東京、仙台から男三人名護に深夜集まるとは。少し話して、疲れ切って眠る。

三月十一日

七時半起床。メモをつけて八時ヤロー三名で朝食。雑談九時半照屋君迎えに来て出発。十時運天港着。私は伊是名、結城さんは伊平屋、渋井さんは本部港から伊江島へとそれぞれ別れる。船は小舟かと思っていたら大きな六百五〇tのフェリーだった。これではしばし欠航があるとは信じられぬ。建設労働者が多く乗り込んでいる。十時半出港。おだやかだと思っていたら、港の外に出

たら風が強く、デッキに出ていたら波しぶきでビシヨ濡れになった。それでも久し振りに気持ちいいのでデッキに立ち続けた。バカだね我ながら。十一時半伊是名島仲田港着。村役場の神田さん迎えて下さる。民宿まえだチエツクイン。沖縄そばの昼食後、尚王朝二代目尚円王の生誕地、アサギ小屋、井戸見学。歩いていたら老夫婦伊禮全忠さん（八四才）ムツさん（七八才）が種イモの苗を作っていたのでインタビュー。仲田部落の浜里ヨネさん（八七才）インタビュー。続いて伊禮正哲さん（七七才）安さん^{ヤス}。正哲さんは前の伊是名村長だった。六五才以上の老人による会社のアイデアを眼を輝かせて聞いてくれた。続いて名嘉政晶さん（八九才）ツルさん（八六才）。十六時予定聞き書き修了。なんとかミニディスクも機能しているようだ。

修了後神田さんに島を案内していただく。神田さんは兄弟六人で島に戻ったのは次男の彼だけだそう。ゆつたりとした好人物。大阪で新聞配達の苦労をしていたらしい。十八時前民宿に戻る。今日は伊是名部落の銘別住宅が良かった。仲田、勢理客、諸見の集落を廻った。十九時神田さん等と食事。×原稿が気になって飲めない。二十二時民宿に戻り日経書評原稿十勝毎日原稿。沖縄でゆつくり人生の為のインタビューしているのに全然ゆつくり生活じゃない。深夜三時前修了。風呂を使って眠る。

三月十二日

朝八時朝食コイルで起こされる。東京と北海道にそれぞれ昨日書いた原稿送る。部屋の窓から海風が流れ込み潮騒が心地良い。室内の原稿が残っているな。全くイイ生活じゃないのは解っているのだが、どう変えようもネエなコレは。

十時過ぎ民宿発。伊是名の山川シゲさん（八六才）。伊是名は

美しい集落で、山川さんの家はその典型の一つ。南面し、南に縁側がある。雑貨商も営んでいるので少し計り商品、歯みがき粉、石鹸等の日用品がささやかに並べられている。草いじりが好きで庭は花が咲き乱れている。色んな人が、あの花はナー二なんて聞くらしく柱に花の名前が落書き風に自分で書き込んであり、おかしかった。黒砂糖、砂糖を頂いてしまう。気持ちだって。仲田の山内サチさん（八六才）は二回程うかがって留守だったので良く動き廻る人だと知れる。昼食時を狙って行けばつかまるだろうと十二時過にうかがったら今度は居た。八キ八キとよく話し頭の回転も速いお婆さんで沢山話が聞けた。又もお土産に砂糖をいただく。昼食を終え仲田のゲートボール場でジイさん婆さんを待ち伏せる。十五時からチラホラ集まり始まり、盛時十人を超えた。陽射しもきつく私も気持ち良かった。真青な海に間近な何とも言えぬゲートボール場であった。十六時頃山内サチさんの紹介で皆に交り話を聞く。伊禮正八さん（七〇才）伊是名老人クラブ会長の話を取る事が出来た。伊是名島の老人クラブは六五才以上八五才以下で総勢三八〇名程。全人口の三分の一を占めると言う。十七時前民宿に戻り、夕方の散歩を一時間程。一人は気持ちヨイ。十九時伊是名村役所スタッフと会食。二十三時半民宿まえだに帰る。クタクタではあるが健全だなこの状態は。

三月十三日

薄曇り。船は出るかな。ゆつたりとした3日間だった。時間を気にする事もなく、それだからイライラする事も無い。でもネエそれでも老人達には何かが必要だな。小学校で子供に生活術でも教えるとか。朝食コイルで起こされて八時飯。食後また眠る。今日はそれくらいのゼイタクは許されるだろう。仲田港は大がかり

な堤防護岸工事でコンクリート漬け。これも日本の何処にでもあるコンクリートの風景だ。

沖繩の老人たちと話し続けていて次第に私の気持ちも少し計り、ホンのチョットではあるがゆっくり目に、柔らかくなっているようだ。老人達はおのずからなる先生なんだな。十時過民宿まえだを出て荷物を背負って一人歩く。昨夕見つけた仲田アサギをみて、部落の外に出る。サトウキビ畑の丘をゆく。体中が汗ばんで気持ちの良い事。二時間程歩いて港に十二時過帰り着く。特産売店伊是名屋のオジイさん名嘉正博さん（八五才）諸見の聞き取りをする。客が多くてジイさんその対応に追われてうまくいかない。聞けばこの島で最初に行った尚王金丸生誕地の隣に住んでいると言う。話し好きのジイさんだったが心残りだ。神田君見送りに来てくれて一時過ニューいぜな乗船。晴れてきた。なんとか本島には戻れそうだ。十四時半頃沖繩本島運天港着。結城渋谷照屋諸氏と再会。名護へ。北部組合事務所でミーティング。今日現在四十九名のヒヤリングを終了した事を確認する。ホテル、チエックイン後夕食に名護の市中に出る。二十一時過ホテルに戻る。

三月十四日

八時結城渋谷さんと朝食。九時頃名護バスターミナル。九時二〇分高速バス発。渋谷さんも今日東京へ帰るので同行。十一時過那覇空港着。渋谷さんと別れ十一時五〇分のANA 82便に空席があったので滑り込む。いきなり時間の流れが変わってしまった。な機内ではウツラウツラしていた。やはり体は疲れているんだ。東京に帰って、二日間は時間の使い方を上手にしないと。